

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3071400182
法人名	有限会社ライブパートナー
事業所名	すずらん
所在地	〒642-0014 海南市小野田1620-102 (電 話) 073-487-3447
評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	〒596-0808 岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成19年6月28日

## 【情報提供票より】 (平成19年6月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	11 人	常勤5人, 非常勤6人, 常勤換算4.3人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨準耐火 造り
	2階建ての ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	15000円
敷 金	有 ( 円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

### (4) 利用者の概要 ( 6 月 1日現在 )

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護 1	1名	要介護 2	0名		
要介護 3	1名	要介護 4	4名		
要介護 5	2名	要支援 2	0名		
年齢	平均 86.5 歳	最低 77 歳	最高	99 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉川内科循環器科
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームすずらんは、JR海南駅から車で10分の緑溢れる閑静な住宅地にある。建物の一階で通所介護事業を行い2階がグループホームとなっている。併設事業として訪問介護、訪問看護、通所介護、居宅介護支援事業などを行っている。法人の理念は「共生と共栄」であり、グループホームは利用者一人ひとりがその人らしく過ごせるように職員・ご家族また地域の方々の協力を得て支えているサービスを目指し、管理者をはじめ職員は日々の介護に取り組んでいる。併設事業の多機能性を活用し、デイサービスの利用など馴染みの関係作りができています。センター方式を導入し、利用者のできること・できないことを把握し、詳細なアセスメントを行っている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>センター方式を取り入れ、職員もセンター方式の内・外の研修を受け、利用者の詳細なアセスメント記録をとっている。便りの発行はできていないが、家族会を開催している。申し送りに関しては、連絡ノートに必要事項を記入し、全職員が確認し情報の共有を行っている。利用者一人ひとりが自立しておいしく食事を楽しめるような盛り付けや工夫を行っている。便秘対策として、運動の機会を増やし、腹部マッサージ等も行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部評価4)</p> <p>外部評価を受審するにあたり、会議を開きその意義を伝え常勤職員全員で自己評価表を作成した。評価結果を活かし、今後の改善に取り組む姿勢が見られる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>昨年7月に第1回目の運営推進会議を開催し、利用者家族・老人会顧問・地域包括支援センター職員・民生委員が参加し、グループホームの現状などを伝えた。その後現在に至るまで開催されておらず、実質的に機能しているとはいえない。運営推進会議には地域包括支援センターの職員が参加しているが、市町村とともにサービスの質の向上に取り組むなどの連携を取るに至っていない。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が毎月の支払いにグループホームを訪れる時に、利用者の暮らしぶりや金銭管理の報告をしている。家族会は年3回行っており、この5月には、隣接する訪問看護ステーションでスタッフと一緒に茶話会・映画会・記念撮影を行った。家族会開催時に家族から意見などを聞き取りを行っている。普段職員が聞き取った意見や苦情は連絡ノートに記入している。苦情相談窓口を設けており、意見や苦情が出された時に対応できる体制がある。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の住民が認知症への偏見を持たずに普通に付き合える関係作りを目指している。グループホーム主催の花見会には自治会の子どもの参加や利用者家族の参加がある。秋祭りでは施設内で民謡の披露やたこ焼きなど、地域の方やボランティアの協力がある。またチューリップ祭りなどの地域の催しに参加し、地元の人々と交流する機会を持つように努めている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共生と共栄」を法人の理念とし、「入所者一人ひとりがその人らしく過ごせる様に職員・ご家族また地域の方達の協力を得て支えていけるグループホームにしていきたい。」という判りやすい言葉で表示し、ホーム内に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けて取り組んでいるが、非常勤職員を含め全職員が理念を共有するまでには至っていない。全職員で会議やカンファレンスを持つ機会が少ない。	○	全職員が理念を共有し、理念に基づいたケアが実践できるように、全職員が参加できる研修・会議などの開催が望まれる。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の住民が認知症への理解を深め、偏見を持たずに普通に付き合える関係作りを目指している。チューリップ祭りへの参加など、地域の催しに参加し交流に努めている。グループホーム主催の花見会には自治会の子どもの参加や利用者家族の参加がある。秋祭りでは施設内で民謡の披露やたこ焼きコーナーの開設などに地域の方やボランティアの協力がある。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を受審するにあたり、会議を開きその意義を伝え、常勤職員全員で自己評価表を作成した。評価結果を活かし今後の改善に取り組む姿勢が見られる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年7月に第1回運営推進会議を開催し、利用者家族・老人会顧問・地域包括支援センター職員・民生委員が参加し、グループホームの現状などを伝えた。その後現在に至るまで開催されていない。	○	運営推進会議を定期的で開催し、サービスの実施状況と共に自己評価や外部評価結果を報告し、サービスの質の向上に向けた取り組みを行うとともに地域とのつながりを深め、地域の理解や協力を得ることが期待される。
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの職員が参加しているが、市町村とともにサービスの質の向上に取り組むなどの連携は取れないに至っていない。	○	運営推進会議や、和歌山県グループホーム連絡協議会を通じて市町村との連携を取り、サービスの質の向上に取り組むことが望まれる。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族がグループホームを訪れた時に、誕生会の写真等を手渡し利用者の暮らしぶりや金銭管理の報告をしている。家族会は年3回行っており、この5月には隣接する訪問看護ステーションで、茶話会・映写会などを行った。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会開催時に家族から意見などを聞き取っている。普段職員が聞き取った意見や苦情は連絡ノートに記入している。苦情相談窓口を設けており、意見や苦情が出された時に対応できる体制がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動を極力抑えるように努力している。職員の異動や離職時には、できるだけ馴染みの職員が不穏になる利用者のそばに寄り添うように配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常業務の中でOJTを行っているが、研修計画は立てられておらず、職員の内部・外部研修の受講の機会は少ない。	○	年間の研修計画を作成し、内外の研修を受講する機会の確保が望まれる。和歌山県グループホーム連絡協議会に入会しており、そこでの研修に職員の力量に応じて参加できるように配慮し、研修の成果を全職員にフィードバックできる機会を設け、職員の資質の向上に取り組んでいくことが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	和歌山県のグループホーム連絡協議会に入会している。管理者は役員を務めており、グループホーム間のネットワーク作りができる環境にある。事業者間の交流や連携を活用しながら、サービスの質の向上に向けた取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一階のデイサービスの利用、お試しデイサービスの利用などを通じて徐々に馴染みながら入居することができる。デイサービス利用時にはグループホームの職員が出向き、利用希望者に馴染むように配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は普段の生活の中で、利用者が自分の家族に話すように意識して地域の言葉で会話をす様に心掛け、喜び・悲しみ・怒りを自然に出すことができるような雰囲気作りを心掛けており、ともに支え合える場面を作り、和やかな生活の実現を目指している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に利用者の生活歴や希望などを聴取している。さらに、日常生活の中でも、一人ひとりの意向を把握するように努めており、一人ひとりの希望に対応したゆったりとした援助を目指している。センター方式を用いてアセスメントを行い、利用者や家族の希望を聞き取っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者のできること、できないことを把握して、課題と目標を設定し、介護計画を作成し評価を行っている。計画作成時に、利用者本人、家族、介護支援専門員、必要な関係者などによる話し合いが開かれていない。	○	評価・見直し時にサービス担当者会議を開き、利用者、家族、必要な関係者を交えた話し合いの場を持ち、利用者や家族の希望や意向を共有するとともに、利用者がその人らしく暮らせるための計画を作成することが望まれる。介護計画を交付する際に、同意欄に利用者又は家族の記名・捺印が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態の変化に対しては、職員が家族・主治医・看護師と連携をとり支援している。介護計画は定期的には設定期間終了時に評価・見直しを行なっているが、計画見直し後の新しいサービス計画内容の記録が分かりにくい。また、設定期間終了後の定期的な見直し作業が徹底できていないところもある。	○	身体状況が安定している利用者の場合でも、利用者、家族、必要な関係者が話し合い現状に即した新たな計画を作成していくことが望まれる。またサービス計画の作成時期の表示や、見直しの時期が分かり易い書式の検討が望まれる。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、事業所の多機能性を活用し、介護タクシーや訪問ヘルパーによる通院などを行っている。一階のデイサービスの利用も可能である。訪問看護ステーションの活用、福祉用具購入の相談も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者などから希望があれば入所前からのかかりつけ医に受診できるように支援している。現在3名の利用者がそれぞれの馴染みの医師を主治医としている。家族等への受診時の情報伝達は看護師が行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時にターミナルケアの説明を行っている。利用者の状態が変化したときは医師や看護師と連携を取っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りやプライバシーを尊重した声掛けや対応を心掛けている。新人には管理者が日々の業務の中で研修を行っている。個人情報の記録等は取り扱いに注意し、鍵付きの保管場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重した支援を目指している。重度の利用者が増えるなかで、利用者一人ひとりがその人らしく過ごせる支援のあり方を模索している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	グループホーム前に行商が新鮮な魚を売りにくるなど、新鮮な野菜や魚を食材として入手できる。新聞の折り込み広告などを見て利用者から希望を聞き取る努力をしているが、買い物は職員が行っている。調理の下ごしらえや、盛り付け、お菓子作りなど利用者と一緒にいき、その過程を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の清潔保持を大切に考え、お風呂は毎日沸かしていて希望者は毎日でも入浴が可能である。職員の配置が許す限り利用者が好きな時間に入浴できるように支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力量を把握して、塗り絵、ガーデニング、風船バレー、新聞たたみなど利用者の個性に合った楽しみや役割を用意し、張り合いのある日々の暮らしの支援に取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺の散歩や畑での野菜の収穫など気分転換を図っているが、近隣への外出の機会は少ない。外出時の車椅子使用者が6名と多く、近隣のスーパーマーケットなどへの買い物や外出の機会の支援が十分とはいえない。	○	職員の配置や勤務シフトの見直しを検討し、屋外に出かける機会として近隣のスーパーマーケットへの買い物や外食などの外出支援の充実が望まれる。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵を掛けることの弊害は理解している。建物の1階は夜間には玄関がセキュリティーでロックされる為エレベーターの電源を切っている。2階のベランダへは自由に入りができ、1階にも降りることができる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時・非常災害時対応マニュアルを作成し、市の消防団の協力を得て消防訓練を行っている。災害対策として日頃より地域の住民の協力を得られるような働きかけは行っていない。食料品などの備蓄は特にしていない。	○	運営推進会議を通じて日頃より地域の自治会や地域の人々の理解と協力が得られるように働きかけていくことが望まれる。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量は把握しているが、専門家などによるカロリー計算やチェックは受けていない。嚥下機能の低下している利用者などには、一人ひとりの状態に合わせてできるだけ自立しておいしく食べられるように工夫している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはソファを置き、ゆったりと過ごせるように配慮している。居間兼食堂から、オープンデッキやプランターの花、自然の景色が見られ、開放感がある。畑で咲いた花を生けたり、ガーデンサポーターが訪問時に制作した作品を展示するなど家庭的な雰囲気作りの工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者や家族と相談しながら、写真、絵画作品、冷蔵庫、テレビ、家具など馴染みの品物や好みのものを配置し、居心地よく過ごせる空間となっている。		

※  は、重点項目。